

## 第4回目加賀ふるさと検定 初級試験問題

(解答および解説)

1 加賀市内では、縄文・弥生・古墳など、各時代の遺跡が、これまでに約（ ）ヶ所確認されており、県内でも有数の遺跡の密集地となっている。

- ① 150      ② 350      ③ 550      ④ 850

正解は④です。【正解率81.9%】

加賀市には、縄文、弥生、古墳時代を中心とした埋蔵文化財が、これまでにおよそ850ヶ所余り確認されており、当市は、県内有数の遺跡の密集地となっています。古代遺跡が多いということは、この地域が、水に恵まれた自然豊かなところであり、とても住みよい土地であったともいえます。

2 加賀市内で最も古い遺跡は、旧石器時代の宮地町の「宮地向山遺跡」であるが、これは今からおよそ（ ）前の時代のものと考えられている。

- ① 8,000年      ② 13,000年      ③ 20,000年      ④ 33,000年

正解は②です。【正解率78.8%】

私たちのふるさと加賀市における最も古い人類の痕跡は、宮地町にある琵琶ヶ池の近くで見つかった宮地向山遺跡です。この遺跡は、旧石器時代のもので、今からおよそ1万3千年以上も前の遺跡となります。ここからは玉髄や珪質岩などのきわめて硬い石材で作られた石刃や搔器などが見つかっています。

3 昭和39年、柴山瀉干拓工事の際に、湖底約6メートルのところから（ ）が発見され、県内最古の人骨をはじめ、無数の貝類や土器片、などが出土した。

- ① 柴山水底貝塚      ② 柴山瀉遺跡      ③ 柴山湖底遺跡      ④ 柴山海中遺跡

正解は①です。【正解率28.0%】

昭和39年、柴山瀉干拓工事の際に湖底約6メートルのところでは柴山水底貝塚が発見され、無数の貝類や土器片約200点のほか、県内最古の人骨などが出土しました。特に、ここから出土した土器は、西日本の代表的な遺跡群で京都の「北白川遺跡」から出土した北白川式土器と類似しており、関西の影響を強く受けていると考えられています。

4 南郷町から吸坂町、上河崎町にかけての丘陵地には、約85基の古墳が密集しており、このうちの吸坂丸山古墳からは、県内でも珍しい（ ）の形をした土器が出土した。

- ① 猿      ② 鶏      ③ 猪      ④ 兎

正解は②です。【正解率63.7%】

南郷町から吸坂町、上河崎町にかけての丘陵地には、およそ85基もの古墳が密集しており、黒瀬・南郷古墳群と呼ばれています。このうち、吸坂丸山支群の5号墳からは、鉄製冑をはじめ、鶏形土製品や金製の耳環など、貴重な副葬品が出土しました。

5 平安時代、当地域の柏野寺・温泉寺・極楽寺・小野坂寺・( )の5つの寺院が白山五院と呼ばれ、白山信仰の拠点地となっていた。

- ①大聖寺      ②吸坂寺      ③作見寺      ④那谷寺

正解は①です。【正解率82.4%】

平安時代に入ると仏教がますます盛んになり、古来よりの白山信仰が、仏教思想と結びつきました。当地域では、柏野寺、温泉寺、極楽寺、小野坂寺、大聖寺の五つの寺院が「白山五院」と呼ばれ、白山信仰の拠点地として建立されたことが平安後期の書『白山之記』に記載されています。大聖寺は現在の錦城山から荻生町にかけての山の上にあった寺院と考えられています。

6 文明3年、本願寺8世蓮如は、加賀・越前の国境である( )に道場を開いた。

- ①瀬越      ②金津      ③熊坂      ④吉崎

正解は④です。【正解率71.5%】

文明3年(1471)7月、本願寺8世蓮如が加賀・越前の国境、吉崎に道場を開きました。当時、蓮如は比叡山延暦寺衆徒に追われ、近江(滋賀県)を転々としていましたが、ついには北陸にまで避難するかたちで、吉崎に拠点を設定しました。

7 文明18年頃、蓮如の4男、蓮誓が、現在の加賀市( )に在った道場に入り、ここを光教寺と号した。こののち、光教寺は、加賀における一向一揆の拠点の一つとなった。

- ①作見町      ②山田町      ③富塚町      ④大菅波町

正解は②です。【正解率48.2%】

蓮如が吉崎に進出する以前より、河北郡二俣の本泉寺を蓮如の次男、蓮乗が嗣ぎ、3男蓮綱は能美郡波佐谷の松岡寺を開いていました。そして、江沼郡の山田に山田坊が開創され、そこに文明18年(1486)頃に蓮如の4男蓮誓が江沼郡の門徒から取り立てられて入り、光教寺と号することになりました。蓮如の子が住持するこれら3つの寺を「加州三ヶ寺」、蓮乗・蓮綱・蓮誓の3兄弟を「三山の坊主」といいます。

8 永正年間の頃、越前側の( )と、加賀の一向一揆軍がたびたび衝突を起こし、一揆軍に加担していた加賀の大土豪、黒瀬覚道らは惨敗した。

- ①朝倉宗滴      ②織田信長      ③柴田勝家      ④前田利家

正解は①です。【正解率38.3%】

弘治元年（1555）、越前の朝倉宗滴が一向一揆を潰滅させようと、加賀へ大挙して侵入し、10余年にわたる加越抗争が始まりました。南郷城の黒瀬覚道（掃部丞）・藤丸新介、作見千足城の大坂・瀧山津大助・振橋帯刀らが率いる江沼郡の一揆勢は大聖寺から南郷の辺りで朝倉勢の進撃を阻止しようとしたましたが、敗北しました。

9 天正11年、江沼郡では丹羽長秀の与力を務めていた（ ）が、4万4千石の領主として大聖寺城に入った。

- ①山口玄蕃      ②溝口秀勝      ③柴田勝家      ④小早川秀秋

正解は②です。【正解率58.0%】

天正11年（1583）、秀吉は賤ヶ岳の戦い（滋賀県）で柴田軍を破り、勝家は北庄（福井市）で命を絶ちました。この戦いにより、秀吉は前田利家に石川・河北の2郡を与え、丹羽長秀を北庄に置き、越前・若狭の両国と江沼・能美の2郡を統治させました。これにより、江沼郡では、長秀の与力溝口秀勝が、4万4000石の領主として大聖寺城に入り当地を治めることになりました。なり

10 大聖寺藩の初代藩主前田利治の母は、2代将軍徳川秀忠の二女（ ）であり、のちに天徳院と呼ばれた人である。

- ①篤姫      ②珠姫      ③振姫      ④千姫

正解は②です。【正解率50.8%】

慶長5年（1600年）、2代将軍徳川秀忠の二女珠姫は前田利常と結納をかわし、翌6年、江戸から金沢に入りました。この時、玉姫はわずか3歳でした。24歳という年齢で早死にをした珠姫でしたが、この間、8人もの子をもうけています。大聖寺敷地町の菅生石部神社には、絢爛豪華な婚礼調度品の一部が寄進され、現在、市の文化財指定となっています。

11 江沼神社境内北側、大聖寺川に面したところには、宝永6年に3代藩主前田利直の休憩所として建てられた「長流亭」があるが、当初は（ ）と呼ばれていた。

- ①兼見御亭      ②川端御亭      ③熊坂御亭      ④錦城亭

正解は②です。【正解率70.5%】

長流亭は、宝永6年（1709）大聖寺藩3代藩主前田利直の休憩所として建てられたもので、当初は「川端御亭」と呼ばれていました。柿葺の平屋ですが、欄間や障子、板戸などに斬新なデザインがほどこされ、侘びと雅が融合した大胆な意匠に、設計段階で小堀遠州の建築意匠を採り入れた可能性も指摘されています。

12 実性院は大聖寺藩前田家の菩提寺となっており、寺の裏山には、初代から（ ）代までの歴代藩主すべての墓が並んでいる。

- ① 12      ② 13      ③ 14      ④ 15

正解は③です。【正解率65.3%】

実性院は、大聖寺初代藩主前田利治に従い入封した老臣玉井市政が設けた、岡村の宗英寺が起源となっています。万治3年(1660)前田利治が死去し、宗英寺にて葬儀を行ったことから、利治の法号より寺名を実性院と改めました。2代前田利明は実性院を現在の下屋敷に移し、山号を金龍山と改めました。この実性院の裏山には、初代前田利治から、最後の第14代の前田利鸞までの、すべての藩主の墓があります。

- 13 小塩辻の十村役を務めていた鹿野小四郎は、宝永6年に、貴重な農書（ ）を著した。
- ①農業全書      ②農事遺書      ③農業事典      ④農事百選

正解は②です。【正解率27.5%】

初代の鹿野小四郎は、明暦元年生まれで、江沼郡吉崎村の肝煎役でした。元禄4(1691)に大聖寺藩から御目付十村(大庄屋)にとりたてられ、同6年、小塩辻村への移住を命じられました。宝永6年(1709)に、公務と農業の心得を子孫につたえるため『農事遺書』(全5巻)を著しました。『農事遺書』は近世前期の北陸農業の実態を知ることができる貴重な史料で、現在、加賀市の指定文化財となっています。

- 14 大聖寺藩3代藩主前田利直の弟、利昌は宝永6年に（ ）で行われた5代將軍綱吉公の法会において、大和柳本藩主の織田秀親(監物)を殺害した。
- ①泉岳寺      ②増上寺      ③寛永寺      ④浅草寺

正解は③です。【正解率63.2%】

利昌は宝永6年(1709)2月、上野寛永寺で行われた5代將軍徳川綱吉の法会において、他藩の藩主4人とともに朝廷の使者をもてなす御馳走役を命じられました。ところが、利昌はこの法会が行われた2月16日に乱心し、同寺塔頭の顕性院で大和柳本藩主の織田秀親(監物)を殺害しました。事件後、利昌はその身柄を山城淀藩主の石川義孝に預けられ、同月18日に切腹となり、大聖寺新田藩も廃藩となりました。領地1万石は、幕府に没収されたのち、同年4月に大聖寺藩に返還されました。

- 15 大聖寺藩士石川嶂は、明治元年(1868)、日本で最初に（ ）に蒸気船を就航させた。
- ①柴山潟      ②木場潟      ③河北潟      ④琵琶湖

正解は④です。【正解率82.4%】

大聖寺藩士石川嶂は、明治元年(1868)琵琶湖に蒸気船を就航せることを藩当局に進言し承認を得ました。その背景には大聖寺藩が加賀藩と共に大津付近を統治しており、物資や

軍事輸送などに湖上輸送を活用していたことがあります。その後、石川嶂は長崎で造船学を学び、蒸気機関2組を英人から購入し、大津の一庭啓二らとともに翌2年日本最初の湖上汽船一番丸を琵琶湖に就航させました。

- 16 大聖寺藩の歴代藩主がおこなった参勤交代をみると、9代藩主がおこなった参勤交代が最大で、このとき（ ）名が参列した。
- ① 182      ② 256      ③ 397      ④ 567

正解は③です。【正解率66.3%】

大聖寺藩の参勤交代は、江戸に行く参勤（参観）89例と国元に帰る交代（就封）92例が知られています。大名行列の人数は250～300人が最も多く、9代利之が文政5年（1822）4月におこなった交代が397人となっており、最大となっています。

- 17 大聖寺藩は文政8年のフェートン号事件に伴う「異国船打払令」の発令を契機に、（ ）・橋立・日末の3ヶ所に御台場を築造した。
- ① 塩屋      ② 片野      ③ 黒崎      ④ 塩浜

正解は①です。【正解率72.5%】

大聖寺藩は文政8年（1825）のフェートン号事件に伴う「異国船打払令」の発令を契機に、塩屋・橋立・日末の3ヶ所に御台場を築造しました。嘉永3年（1850）には、塩屋御台場に大砲3挺、橋立御台場に大砲5挺、日末御台場に大砲2挺が置かれていました。なお、大砲は資金不足のため21挺中3挺しか完成せず、残りの18挺は北前船主たちの献金によって鑄造されました。

- 18 大聖寺藩第9代藩主、前田（ ）は、これまでの実質七万石を、幕府に願い出て十万石の高直しをおこなった。
- ① 利考      ② 利之      ③ 利極      ④ 利平

正解は②です。【正解率63.7%】

9代利之は文政4年（1821）12月に、加賀藩藩主12代齐広の願書により幕府から10万石の待遇が公認されました。10万石の内訳は本高7万石・新田高1万石に、毎年、本藩から仕給される米2万俵を加えたものでした。9代利之はまさに名を得るために、実を捨て、諸藩とは逆に、実高よりも表高が多い高直しを行ったのです。

- 19 寛政8年の「船道定法之記」によると、当時、橋立には、（ ）名の北前船主や船頭がいた。
- ① 28      ② 32      ③ 42      ④ 65

正解は③です。【正解率51.3%】

橋立には42名もの北前船主や船頭がいたことが、橋立支院文書のなかの「船道定法之記」（寛政8年・1796）に記載されています。当時の橋立は100軒ばかりの小さな集落であり、この村から、40名を超える船主や船頭を輩出したので、「北前船の里」と呼ばれているゆえんなのです。

- 20 明治4年7月の廃藩置県により、大聖寺県が誕生したが、このあとまもなく金沢県に合併された。したがって、大聖寺県が在ったのは、約（ ）間のことであった。
- ① 1カ月            ② 4カ月            ③ 半年            ④ 1年

正解は②です。【正解率77.2%】

明治4年7月に、明治新政府の廃藩置県により、大聖寺県が誕生しました。しかし、この同じ年の11月には、金沢県に合併しましたので、大聖寺県が在ったのは、僅か4ヶ月間のこととなります。なお、金沢県も明治5年2月には石川県と改称しましたので、これ以降、当地は石川県江沼郡となりました。

- 21 明治元年、大聖寺藩は官軍から（ ）の調達を命じられ、その資金不足を補うために、錦城山の洞穴で贋金を偽造した。
- ① 刀            ② ピストル            ③ 大砲            ④ 弾薬

正解は④です。【正解率69.9%】

明治元年（1868）、大聖寺藩は官軍から弾薬（パトロン）の調達を命じられた際、その資金不足を補うために一歩銀や銀の簪などを集めて、御城山（錦城山）下の洞穴で二歩金を偽造しました。この貨幣の偽造事件をパトロン事件といいます。藩は事件が発覚した翌2年に、市橋波江に全責任を負わせ、その切腹をもって終結させました。

- 22 大聖寺藩は、明治3年、（ ）人のキリシタンを預かり、庄兵衛谷の鉄砲場の長屋に収容した。
- ① 15            ② 25            ③ 35            ④ 50

正解は④です。【正解率27.5%】

明治政府は、神道国家を進めるために、キリスト教の国内布教を認めず、旧幕府同様の禁圧政策をとり、明治元年（1868）4月に、浦上（長崎）の信徒3300人余りを全国20の諸藩に分けて配流することを決定しました。大聖寺藩では、50人のキリシタンを預かり、同3年（1870）1月に、大聖寺庄兵衛谷の鉄砲場の長屋に収容しました。

- 23 明治11年、明治天皇が巡幸のために大聖寺に来られた際、（ ）に行在所が置かれ、ここで休憩された。
- ① 長流亭            ② 願成寺            ③ 錦城小学校            ④ 郡役所

正解は③です。【正解率57.5%】

明治天皇の北陸巡幸は、明治11年8月、東京を出発して、富山や金沢を経て、10月6日には、小松の串茶屋村から動橋村を経て、その日の午後に大聖寺町に到着しました。行在所となった錦城小学校には急遽「御座所」がつけられました。この後、明治9年に完成したばかりの熊坂新道を通して福井の方へ向かいました。

- 24 明治10年12月、飛鳥井は旧藩士の柿沢理平を工場長にして、大聖寺に（ ）という会社を大聖寺につくり、ここで鉛筆製造をおこなった。
- ①大聖寺鉛筆会社    ②加州松島社    ③江沼鉛筆製造所    ④加賀文具社

正解は②です。【正解率46.1%】

明治10年(1877)12月、飛鳥井清は旧藩士の柿沢理平を工場長にして「加州松島社」という会社を大聖寺松島町に創設しました。理平はさまざまな工夫を重ねて、ついには同16年オランダのアムステルダム万国博覧会で第一級第一等賞を獲得し、舶来品に劣らない良質の鉛筆を大量に作り出すことに成功しました。

- 25 「大聖寺博覧会」は、（ ）に、大聖寺の錦城小学校と遷明中学校の2ヶ所を会場に盛大に開催されました。
- ① 明治12年    ② 明治38年    ③ 大正2年    ④ 昭和3年

正解は①です。【正解率42.0%】

「大聖寺博覧会」は、明治12年(1879)の4月から5月にかけての15日間にわたり、大聖寺の錦城小学校と遷明中学校の2ヶ所を会場に盛大に開催されました。この博覧会は、旧大聖寺藩の家老前田幹・や権大参事飛鳥井清らが企画したもので、明治維新後の江沼郡における初の博覧会の開催であり、石川県内でも明治5年の金沢展覧会、同7年の金沢博覧会に次ぐ早い時期の開催でした。

- 26 明治24年5月、日本を訪れていたロシア皇太子が、現在の大津市で、津田三蔵と名乗る（ ）に襲われた。このとき、皇太子の命を救ったのが現在の加賀市加茂町出身の北ヶ市市太郎であった。
- ①通訳士    ②巡査    ③大工    ④人力車車夫

正解は②です。【正解率42.0%】

明治24年(1891)年5月に日本を訪問中のロシア帝国の皇太子ニコライ(のちの帝政ロシア皇帝ニコライ2世)が、今の滋賀県大津市で、警備にあっていた巡査・津田三蔵に突然斬りかかれ負傷しました。このとき、皇太子の命を救った北ヶ市市太郎ら2人の人力車車夫には、事件後、日露両国政府から褒賞が与えられました。

27 昭和 30 年代頃まで、当地方の農村では、裂いた古い木綿と麻などを交互に織りこんで作った野良着が使われていたが、こうした仕事着は（ ）と呼ばれていた。

- ① ドンコ      ② ドテラ      ③ サックリ      ④ ハオリ

正解は③です。【正解率60.6%】

サックリは昭和30年代くらいまで、主に農山漁村で使われた仕事着です。水に強く丈夫で、夏は涼しく冬は暖かかったといます。日本海側の広い地域で着用されており、このサックリは貴重な木綿を再利用するため始まったものと考えられています。サックリの語源は「裂き織り」からきているとの説もありますが、はっきりとは分かっていません。

28 大聖寺の町屋は、道路に面して間口が狭く奥行きが長い、いわゆる（ ）の寝床と呼ばれる間取りであった。

- ① ヘビ      ② ウナギ      ③ ハモ      ④ キリン

正解は②です。【正解率85.5%】

大聖寺の町屋は、道路に面して間口が狭く奥行きが長い、いわゆる「ウナギの寝床」と呼ばれる間取りでした。全国的には、京都の町家が「ウナギの寝床」の代名詞となっていますが、これは、間口の広さで課税した豊臣秀吉の税制に反発して、こうした形の家が増えたという説もあります。

29 （ ）の浜煎りは、もともと、漁師が船上で調理し食べていた漁師料理といわれているが、今では、加賀地方を代表する郷土料理のひとつとなっている。

- ① サバ      ② メギス      ③ サンマ      ④ エビ

正解は②です。【正解率64.2%】

「メギスの浜煎り」は本来、漁師が漁に出た際、船上で調理し手軽に食べていた漁師料理といわれています。作り方はいたって簡単で、ウロコ・内臓・頭をとったメギスを鍋に入れ、ひたひたに水を入れ、塩を加え、強火にかけます。めぎすに火が通ったら、煮汁を捨て再び火にかけ、軽くゆすりながら水分を飛ばして完成です。

30 （ ）の春祭りは、大聖寺の全町が参加する祭りで、「桜まつり」とも呼ばれ、もともと毎年4月15日から17日までの3日間かけて行なわれていた。

- ① 江沼神社      ② 菅生石部神社      ③ 加賀神明宮      ④ 春日神社

正解は③です。【正解率40.4%】

加賀神明宮(山下神社)の春・秋の祭りは、大聖寺の全町が参加する祭りです。特に、春は「桜まつり」と称し盛大に行われます。もともとは毎年4月15日から17日までの3日間をかけて行われていました。15日は「宵宮」16日、17日は「本祭」として



行われています。近年では4月の第2土曜・日曜に行われています。

- 31 当地方で使われていた方言、「がっぱ」は、主に（ ）という意味で使われた。
- ① 河童のような顔      ② やさしい      ③ 面白い      ④ 必死に

正解は④です。【正解率80.8%】

この地方で使われてきた方言「がっぱ」は、我を忘れるくらい、すごく必死で熱中しているようすをいいます。そのほとんどは「がっぱになる」として使いました。例えば、試験直前に友人が必死に教科書を読んでいる姿を見て、「それに、がっぱになるなま！」と忠告するようなどきにも使いました。

- 32 世界で最初に人工雪の結晶をつくることに成功した片山津温泉出身の物理学者、中谷宇吉郎博士は、（ ）小学校を出たあと、小松中学、四高、東大と進んだ。
- ① 潮津      ② 片山津      ③ 動橋      ④ 錦城

正解は④です。【正解率43.5%】

宇吉郎の才能を見抜いた両親は、教育力が高いとされた大聖寺の錦城小学校に入れるため、幼稚園の時から大聖寺の九谷焼の名工・浅井一毫のところや旧藩主前田利鸞に仕えていた松見家などに下宿させました。その頃の話は、大人になっても印象深いものがあったようで、そこで見聞きしたことなどが、宇吉郎のエッセイなどに登場します。

- 33 大聖寺出身の作家、深田久弥は、昭和40年に『日本百名山』の著書で（ ）を受賞し、一躍、山の文学者として知られるようになった。
- ① 読売文学賞      ② 泉鏡花文学賞      ③ すばる文学賞      ④ 毎日出版文学賞

正解は①です。【正解率49.2%】

深田久弥は、昭和40年に『日本百名山』で第16回読売文学賞を受賞しました。読売文学賞は読売新聞社が昭和24年（1949）に、戦後の文芸復興の一助のために制定した賞で、小説、戯曲・シナリオ、随筆・紀行、評論・伝記、詩歌俳句、研究・翻訳の6部門がある。久弥が受賞したのは「評論・伝記」の部でした。

- 34 橋立村の北前船主、西出孫左衛門は、明治22年、（ ）に拠点を移し、カムチャッカなどに漁場を開くなど、北洋漁業に転身した。
- ① 青森      ② 小樽      ③ 函館      ④ 旭川

正解は③です。【正解率52.8%】

西出孫左衛門は、橋立村の北前船主の中では、久保彦兵衛と並ぶ大船主で、大聖寺藩に

たびたび多額の献金をしています。明治22年(1889)函館に拠点を移し、カムチャッカに漁場を開くなど、北洋漁業に転身し、成功した人として知られています。函館では、さまざまな役職について、北海道経済界の重鎮となりました。

35 現在の加賀市桑原町出身の生理学者、本川弘一博士は、( )の研究でノーベル賞候補にもなるなど、大きな業績を残した。

- ① 結核            ② 脳波            ③ 糖尿病            ④ 寄生虫

正解は②です。【正解率19.2%】

生理学者本川弘一博士は、夜間学校で学ぶなど苦学の末、東京帝国大学医学部に入りました。その後、電気生理学を専攻し、昭和15年(1940)東北帝大教授となりました。脳波や色覚などの研究でノーベル賞候補にもなるなど、世界的に注目され、学士院賞や朝日文化賞などを受賞し、40年には東北大学長も務めました。

36 鉾山開発などのために大聖寺藩に召し抱えられた九谷焼の陶工、後藤才次郎の家は、もともと( )に仕えていたとされる。

- ① 富山藩            ② 加賀藩            ③ 大野藩            ④ 鍋島藩

正解は②です。【正解率51.3%】

九谷焼の創始者として知られる後藤才次郎の家は、もともと金沢に在り、加賀藩に仕えていました。大聖寺藩が分立したときに、初代藩主前田利治が九谷の山奥に金鉾を求めて鉾山開発をすることになりますが、このとき、この分野の知識にたけた才次郎を大聖寺に連れてきたといわれています。

37 昭和15年、「日本放送協会」(現在のNHK)が設立されたとき、その初代会長に、大聖寺出身の( )が就任した。

- ① 坂田英一            ② 岩原謙三            ③ 馬島健吉            ④ 竹田儀一

正解は②です。【正解率62.7%】

大聖寺穴虫(錦町)出身の岩原謙三は、東京商船学校を経て三井物産に入社しました。その後、ニューヨーク支店長や本店理事などを歴任し、大正9年(1920)芝浦製作所の2代目社長に就任しました。昭和13年に(株)東京放送局が発足し、総裁に後藤新平、理事長に岩原謙三が選ばれました。その2年後には、「日本放送協会」(NHK)が設立され、初代会長に岩原謙三が就任しました。

38 大聖寺藩士( )は、『九経談』や『梧窓漫筆』などの著書も多く、江戸時代後期における、日本を代表する儒学者として知られている。

- ① 新井白石            ② 頼山陽            ③ 荻生徂徠            ④ 大田錦城

正解は④です。【正解率70.5%】

大田錦城は、大聖寺藩医の榎田玄覚の7男として大聖寺新町で生まれました。20歳のとき、江戸に出て山本北山や多紀桂山などから儒学を学びました。経学の自説をまとめた『九経談』は、当時、江戸においてベストセラーとなったと伝えられ、和文随筆『梧窓漫筆』や『海外諸国名録』などとともに錦城の代表的な著作となっています。

39 大聖寺耳聞山出身の憲法学者、上杉慎吉は、東京帝国大学の教授時代、天皇機関説の（ ）と激しい論争を展開したことで知られる。

- ①家永三郎      ②美濃部達吉      ③児玉幸多      ④井上光貞

正解は②です。【正解率47.2%】

憲法学者上杉慎吉は、金沢の第四高等学校から東京帝国大学に入学し、尊王論、大権中心の憲法論などを学びました。その後、東大の教授となり、天皇機関説の美濃部達吉と激しい論争を展開しました。上杉の学説は「大日本帝国は万世一系の天皇が統治すべき」というもので、国家主義を唱える学者の代表となりました。

40 書・篆刻・陶芸などの総合芸術家。北大路魯山人は、大正4年秋、山代温泉に来遊し、陶芸家（ ）から九谷焼の絵付けを学んだとされる。

- ① 須田菁華      ②竹内吟秋      ③ 北出塔次郎      ④滝口加全

正解は①です。【正解率56.5%】

北大路魯山人は、大正4年（1915）秋、山代に来遊しました。風流の心得ある山代温泉旅館の主人たちは、魯山人を快く迎え、書画や篆刻の看板などを注文しました。このとき、九谷焼に関心を寄せ、陶芸家の須田菁華から九谷焼の様式と手法を学び、数々の料理用食器を完成させました。後日、魯山人は「私は須田菁華から教えられた」と述べています。

41 大聖寺出身の河野安通志は、大正11年に仲間数人とともに、「日本運動協会」を創設した。これが日本初の（ ）チームだといわれている。

- ①バスケット      ②サッカー      ③プロ野球      ④ラグビー

正解は③です。【正解率78.8%】

河野安通志は大聖寺藩士河野家に生まれましたが、明治30年（1897）一家で横浜に転居しました。のち早稲田大学に入学しました。早稲田では野球部のエースとして活躍しました。大正11年（1922）に「日本運動協会」（芝浦協会）を仲間数人と創設しましたが、これが日本で最初のプロ野球チームとなりました。昭和35年その功績を称えて野球殿堂入りをしました。

42 縄文時代、江沼平野は入り江や浅い海であった。その後、大聖寺川や動橋川などから運ばれてきた土や砂が堆積して平野になったと考えられており、こうした平野は（ ）と呼ばれている。

- ① 沖積平野      ② 堆積平野      ③ 沈積平野      ④ 流域平野

正解は①です。【正解率22.8%】

およそ6000年前の縄文時代、江沼地域は今より海面が2～3m高かったといわれ（縄文海進）、江沼平野も、この時代は入り江や浅い海でした。その後、大聖寺川や動橋川などによって運ばれてきた土や砂が堆積して平野になったもので、こうした平野は「沖積平野」と呼ばれています。また、柴山潟、木場潟、今江潟などは、土や砂が堆積せずに残り、これらの湖は「海跡湖」と呼ばれています。

43 標高478mの「鞍掛山」は、馬の鞍の形に似ているためにこの名がついたといわれているが、古くより日本海を往来する船の目印にもなっていたために、（ ）とも呼ばれていた。

- ① 標識山      ② 目印山      ③ 灯台山      ④ 舟見山

正解は④です。【正解率60.6%】

加賀市東谷口と小松市滝ヶ原町との境界には標高478mの「鞍掛山」があります。2つのコブをもち、馬の鞍の形に似ているためにこの名がついたといわれていますが、古くより日本海を往来する船の目印にもなっていたために、「舟見山」とも呼ばれていました。

44 片野鴨池には水鳥の重要な生息地として、平成5年にラムサール条約の登録湿地となった。特に、絶滅危惧種である（ ）の国内最大の飛来地となっている。

- ① トモエガモ      ② 白鳥      ③ 鶴      ④ ガン

正解は①です。【正解率89.1%】

片野鴨池は、絶滅危惧種のとモエガモの国内最大の飛来地として知られていますが、日本野鳥の会は、とモエガモの国内最大の越冬地・片野鴨池で捕獲した個体に衛星用発信機を装着し追跡することで、同種が中国とロシアの国境、アムール川流域を経由し、北極圏に到達するまでのルートを世界で最初に解明しました。

45 塩屋海岸から片野海岸にかけては（ ）やハマゴウ・ハマヒルガオ・ハマボウフウなど、保存状態のよい砂丘植生が見られ、昭和58年に昭和天皇もお立ち寄りになられた。

- ① イワチドリ      ② イソスミレ      ③ イカリソウ      ④ ガガブタ

正解は②です。【正解率54.9%】

塩屋海岸から片野海岸にかけては、ハマゴウ・イソスミレ・ハマヒルガオ・ハマボウフウ・コウボウムギなど保存状態のよい砂丘植生が見られます。イソスミレは、毎年、5月頃に、地上茎から伸びる花柄に、直径2センチ程度の淡紫色の花をつけます。昭和58年の第34回全国植樹祭にご臨席されるために石川県を訪れていた昭和天皇も、この塩屋海岸

の海浜植物をご覧になりました。

46 富士写ヶ岳ではシャクナゲが美しく、地表には（ ）やキクザキイチゲのような「スプリング・エフェメラル」とよばれる春植物が見られる。

- ①キンモクセイ ②ツワブキ ③ シクラメン ④カタクリ

正解は④です。【正解率23.3%】

富士写ヶ岳では、ツツジの女王とよばれるシャクナゲが美しく、毎年、5月の大型連休は登山者で賑わいます。また、地表にはカタクリやキクザキイチゲのような「スプリング・エフェメラル」とよばれる春植物が見られます。春植物は地表に陽光が届く時期に花や葉を広げ、地表が暗くなる夏には地上部が枯れて休眠に入ってしまう植物たちのことです。

47 動橋川は、大日山を源流とし、中流域で四十九院川と合流し、塔尾町から二子塚町、動橋町などを通り、最下流で中島町から柴山瀧に注ぐ、全長約（ ）kmの川である。

- ① 12 ② 20 ③ 30 ④ 45

正解は②です。【正解率33.7%】

動橋川は、大聖寺川と同じく大日山を源流としています。全長20.4kmで、中流域で四十九院川と合流し、塔尾町から二子塚町、動橋町などを通り、最下流で中島町から柴山瀧に注いでいます。上流域は、ヤマメやイワナの溪流釣りのスポットとなっています。

48 市内片野町の鴨池周辺で、江戸時代から行われてきた鴨を捕獲するための伝統的な猟を坂網猟と呼ぶが、その坂網を放り投げる場所を（ ）という。

- ① 坂場 ②投げ場 ③ 仕事場 ④鴨場

正解は①です。【正解率74.6%】

「坂網猟」とは、矢竹でつくったY字形の枠に網を張り付けた、長さおよそ3.5mの坂網を飛来する鴨の群れに向かって、空中高く放り投げて捕獲する投げ網猟の一種です。その坂網を放り投げる場所を「坂場」といいます。鴨が最も多く飛来してくるコースの真下の坂場は猟師たちの取り合いとなるので、毎年、くじ引きをして決めます。

49 山中温泉栢野町の（ ）神社境内には、本州最大級の杉の木があり、昭和22年、昭和天皇が北陸巡幸のとき、お立ち寄りになった。

- ①白山 ②菅原 ③春日 ④八幡

正解は②です。【正解率50.3%】

山中温泉から大聖寺川上流2kmの栢野町の菅原神社境内に、本州最大級の杉の木があります。樹高はおよそ50m、幹周りは、最大で5.75mあり、本州最大級ということで、国の天然記念物に指定されています。一説に樹齢は2,300年余りと伝えられていましたが、近年の樹齢測定では700年ほどと考えられています。

50 山中温泉荒谷町の（ ）では、国の特別天然記念物に指定されているオオサンショウウオが飼育されている。

- ①県民の森 ②我が谷ダム ③内水面水産センター ④森林組合事務所

正解は③です。【正解率72.5%】

オオサンショウウオは世界最大の両生類といわれ、世界では日本と中国・アメリカでしか生息が確認されていません。現在、山中温泉荒谷町の石川県内水面水産センターで2匹が飼育されています。うち1匹は昭和48年(1973)に大聖寺川鶴仙溪で保護されたもので、平成18年(2006)の調査では全長135cm、体重19.2Kgで、国内で確認されているものでは最大級であることがわかりました。

51 山代温泉薬王院が所蔵する（ ）は、もと大聖寺慈光院の本尊として祀られていたもので、平安時代末期の白山信仰につながる仏像として貴重である。

- ①薬師如来像 ②十一面観音立像 ③愛染明王 ④阿弥陀如来像

正解は②です。【正解率54.9%】

山代温泉薬王院が所蔵する檜材一木造の「木造十一面観音立像」は、もと白山五院大聖寺の後身といわれる大聖寺慈光院の本尊として祀られていたものですが、慶長5年(1600)、大聖寺城主山口玄蕃頭宗永が前田利長に攻め滅ぼされた際に、池の中に投げ入れられ難を逃れたとも伝えられています。明治維新後、同じ白山五院の一つであった薬王院に移されました。十一面観音は本地垂迹説による白山主峰の御前峰の本地仏で、平安時代末期の白山信仰につながるものとして大変貴重な仏像です。

52 大聖寺の金工家山田宗美が制作した（ ）の大置物は、明治42年の日英博覧会に出品された宗美の代表作で、現在、石川県の指定文化財となっている。

- ①鳩 ②熊 ③狛犬 ④狸

正解は③です。【正解率35.2%】

大聖寺藩の刀鍛冶師の家に生まれた山田宗美は、鉄打出しの名人でした。この狛犬大置物は、高さ122cmの大きなもので、宗美の代表作とされています。明治42年(1909)開催の日英博覧会に出品され、名誉大賞を受賞しました。

53 大聖寺神明町の（ ）には、極彩色の五百羅漢像500 体全てが欠けることなく保管されており、加賀市の指定文化財となっている。

- ① 実性院      ②全昌寺      ③宗寿寺      ④蓮光寺

正解は②です。【正解率61.1%】

大聖寺神明町の曹洞宗全昌寺には、釈迦三尊像3体、十大弟子尊像10体、四天王尊像4体、五百羅漢尊像500体の計517体が、彩色豊かに保存状態も良好な形で残されています。製作記録と寄進者を記録した台帳も現存しており、製作年代、寄進者の名前・住所まで明確に知ることができます。羅漢像は、京都の仏工山本茂祐が慶應3年(1867)から明治初年にかけて製作したもので、石川県内では唯一の完存した五百羅漢像として貴重です。

54 加賀市は北陸最大の（ ）の生産地で、現在、40戸近くの農家が栽培しており、北陸3県だけでなく、関西の市場にも出荷し、味や品質で高い評価を受けている。

- ①トマト      ②キュウリ      ③ナス      ④ブロッコリー

正解は④です。【正解率90.7%】

加賀市は、およそ35戸の農家がブロッコリーを約70haの畑に作付けしており、北陸最大のブロッコリー産地として知られています。近年では、北陸3県だけでなく、関西の市場にも出荷し、味や品質で高い評価を受けています。

55 加賀市内には、昭和58年に整備された（ ）工場団地と、平成9年に整備された小塩辻工場団地の、2カ所の工場団地がある。

- ①分校      ②宇谷野      ③伊切      ④平床

正解は②です。【正解率81.3%】

加賀市内の工場団地には、宇谷野工場団地と小塩辻工場団地の2つがあります。宇谷野工場団地は昭和56年から同58年にかけて、宇谷町の山林およそ27万㎡を造成して加賀市初の工場団地としてオープンしました。現在、この団地には、16社の企業が進出しています。一方、平成9年(1977)に小塩辻町地内の丘陵部15haが工場団地用地として造成され、市内第2の工場団地としての発展が期待されています。

#### 専門テーマ(実盛) 5問

56 斎藤実盛の生誕地については、いくつかの説があるが、一般的には（ ）だとされている。

- ① 越中      ② 加賀      ③ 越前      ④ 信濃

正解は③です。【正解率53.9%】

斎藤実盛は、藤原利仁の流れを汲む斎藤則盛の子で、越前国（現在の鯖江市南井町）で生まれたとされていますが、確かな証拠はありません。その後、武蔵国幡羅郡長井庄（埼玉県熊谷市）を管理する長井斎藤家に養子に入り、現在の熊谷市付近を拠点として活躍しました。

57 斎藤実盛が命を助けた駒王は、のちに成人して（ ）となって、実盛と戦うことになった。

- ①平清盛                      ②源義朝                      ③源義経                      ④木曾義仲

正解は④です。【正解率74.1%】

久寿2年（1155年）、源義平が叔父にあたる源義賢を討つという事件がおきました。このとき、義賢の子でまだわずか2歳の駒王を、実盛は哀れに思い、その命を助けました。やがて、その駒王が成人して木曾義仲となり、実盛が属していた平家軍と戦い、打ち滅ぼすこととなるのです。

58 斎藤実盛が篠原の戦いで、白髪を染めて参戦したとき、年齢は（ ）を超えていたと伝えられている。

- ① 50                      ② 60                      ③ 70                      ④ 80

正解は③です。【正解率81.3%】

寿永2年（1183年）、実盛は平維盛らと共に、木曾義仲追討のため北陸に出陣しました。しかしながら、平家軍は俱利伽羅の戦いや篠原の戦いで大敗を喫し、味方は総崩れとなりました。死を覚悟した実盛は、白髪の身で戦うことを恥じと考え、頭を黒く染めて参戦しましたが、ついに義仲の部将手塚太郎光盛によって討ち取られました。実盛が生まれたのが天永2年（1111年）で、死没年が寿永2年6月1日（1183）とされており、実盛が篠原の地で命を落としたときは72歳ということになります。

59 加賀市手塚町の首洗池のそばには、松尾芭蕉の「むざんやな かぶとのしたの（ ）」という句碑がたっている。

- ①くろあげは                      ②きりぎりす                      ③かぶとむし                      ④とのさまばった

正解は②です。【正解率84.5%】

元禄2年（1689）7月、松尾芭蕉は、『奥の細道』の途上で小松の多太神社に訪れました。ここで、斎藤実盛の着用した兜や袖を拝観し、木曾義仲と実盛との数奇な巡り合わせに、深く感じて、「むざんやな 甲の下の きりぎりす」と詠みました。実盛ゆかりの地という



ことで、加賀市手塚町の「首洗池」にも、同じ句を刻んだ芭蕉の句碑がたてられています。

60 謡曲「実盛」は、時宗の遊行上人の前に現れた実盛の亡霊を題材にしたもので、その作者は（ ）である。

- ① 世阿弥            ② 西行            ③ 鴨長明            ④ 藤原定家

正解は①です。【正解率67.4%】

応永 21 年 (1414)、時宗の遊行上人太空が潮津で法要を開いたとき、斎藤実盛の霊が現れ、奮戦むなしく手塚太郎に討たれた無念さを語りました。太空はこの怨霊をねんごろに供養し、鎮魂しました。この話をもとに世阿弥が、謡曲『実盛』として作品化しました。